

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

両利き経営では足りない、4象限管理を大胆に回転させる

小林 喜光 (三菱ケミカルホールディングス会長)

1. 経営者の条件は年齢では決まらない。年を重ねれば情報が蓄積されアドバンテージにもなるが、勉強を重ね頭のアップデートができなければ「老害」にも成り得る。時代を読み、会社を変えていくビジョンを持ち、社会に貢献しながら食欲に稼ぐ。苦しくてもこれらを持ち合わせていればトップにふさわしいだろうし、これらを失った人は若かろうと老いていようと責任ある立場から去るべきだ。
2. 稼ぐ形に関して言えば、私はかねて「4象限管理」を提唱してきた。事業のライフサイクルと成長性・収益性をもとに、個々の事業を「次世代事業」「成長事業」「基盤事業」「課題事業」の4種に分けて、スピード感をもって回転させていく。そんな考え方である。弊社で言えば、カーボンニュートラルの流れを追い風に、炭素循環につながる素材は「次世代」に位置づけられるだろうし、成長は見込めずとも安定的に収益を上げられる事業は「基盤」に分類できる。一方、長らく会社を支えていた部門や製品であっても、収益性の低さや循環負荷への懸念があれば「基盤」から「課題」へと位置づけ、何らかの改善が欠かせなくなってくる。
3. 良いときにこそ、悪くなった場合に備え布石を打つ。近年、ちまたではいわゆる「両利き経営」が流行語になっている。無論、それをむげに否定するつもりはないのだが、正直に明かせばこれだけでは事足りない気がする。

(参考:「日経ビジネス」2021年3月22日号)

幹部への活きた言葉

この世は耐え忍ぶ所

横田南嶺 (臨済宗円覚寺派管長)

1. 仏陀は、まさしく「一切皆苦」と説かれ、「四苦八苦」と説かれた。「四苦」とは生老病死であり、生まれる苦しみ、老いる苦しみ、病の苦しみ、死の苦しみを言う。いずれもが思うようにならないのである。思うように生まれることも、老いることもできない。病もまた思うようになるものではなく、死に至ってはなおさらだ。
2. 更に、愛する者との別離の苦、憎い者と会わなければならぬ苦、求めても得られない苦、この体と心に感じる事は、思うがままに任せられない苦であるという。そして仏陀は、「一切は苦である」と説かれた。何とも暗い話で、希望も何も感じられないかもしれないが、これが事実である。この世は、実に耐え忍ぶ所なのだ。

(参考:「致知」:2021年5月号)

経営者のための営業学

社長自らプレゼンテーション(インド進出)

鈴木 修 (スズキ代表取締役会長)

1. 約43年にわたりスズキのトップに君臨した鈴木修会長(91歳)。浜松の弱小メーカーをグローバルな自動車メーカーに育て上げたカリスマは今年6月で取締役を退任する。修氏がスズキの社長に就任したのは1978年で48歳だった。社長就任の翌年に発売した軽自動車「アルト」では、「エンジンを取ったらどうだ」と、徹底的にコストを削り、既存の軽より2割以上安い47万円で売り出した結果、大ヒット。
2. 販売店の経営者の家族構成まで把握し、ディーラー大会や企業訪問の際に「オヤジは元気か」「息子も一人前になったな」などと声をかける。販売店との強固な関係を築き上げ、33年連続で軽自動車トップの座を守った。スズキにとって日本を上回る市場に育ったインドへの進出の際には、合弁相手を探しに来日したインドの国営企業の調査団に、他社は中堅クラスが応対した中、当時、社長就任4年目の修氏自らプレゼンテーションを行い、合弁相手の座をつかみ取った。

(参考:「週刊東洋経済」2021年3月13日号)

古典に学ぶ

資本家、労働者に共通するものは王道

(解説) 資本家は王道をもって労働者に対し、労働者も亦王道をもって資本家に対し、その関係しつつある事業の利害得失はすなわち両者に共通なるゆえんを悟り、相互に同情をもって始終するの心掛けありてこそ、はじめて真の調和を得らるるのである。(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」): 国書刊行会